

宿泊体験学習で育まれるもの

校長 小林 繁

今年の夏休み前半は雨が多く、関東の梅雨明けは7月29日で、平年より8日遅く、昨年に比べ30日も遅い梅雨明けでした。8月は一気に暑くなり、35℃以上の「猛暑日」は過去最多タイのことです。そのような中、二つの宿泊体験学習が、ほぼ予定通りのプログラムで実施できたことは、本当に幸いでした。そして、一人一人に多くの学びと成長があったと感じています。

7月23日から3日間、5年生の那須甲子自然体験教室がありました。

宿泊施設は、福島県西白河郡にある「国立那須甲子青少年自然の家」で、渋谷区では本年度より約半数の小学校が利用しました。日光国立公園内の約130万㎡の広大な敷地に、野外炊飯場や営火場、キャンプ場やスキー場まであります。初日は、広い施設の全体像を把握できるように、敷地内の写真と同じ場所を探す「なすかしの森（施設探索）オリエンテーリング」をしました。

とくに、那須甲子の自然を肌を感じられたのは二日目でした。朝は、さわやかに晴れていたため、早朝から散歩ができました。ハイキングは、開始とともに小雨がぱらつきましたが、次第に強い日差しとなり、沢沿いの森林を歩く涼しさを感じることができました。宿舎に戻って蕎麦打ち体験が始まると一変してスコールのように激しい雨が降り始めました。

一日で、那須甲子が見せる自然の表情の変化を存分に味わった稀有な一日でした。子供たちは、



急な変更も前向きにとらえて、時間前行動を守り、友達と支え合い励まし合って活動していました。

那須甲子青少年自然の家の教育目標は、「自然と語り、仲間と語り、豊かな感性や人間関係

力・社会力を養い、社会人としての規範意識を育てる。」です。宿泊体験学習の意義が、ここにもあるように感じます。

8月8日から3日間、6年生の日光高原学園がありました。世界遺産「日光の社寺」の中で最も有名な「東照宮」、標高約1400mの高地の湿原である「戦場ヶ原」、日本三名瀑の一つである「華厳の滝」、地下神殿を思わせる神秘的な光景が広がる「大谷石地下採掘場」など、体験学習としての見所が盛り沢山でした。歴史や自然の雄大さに触れることができました。でも、それ以上に子供たちの思い出に残るものは、宿舎で過ごした時間かもしれません。

本年度より渋谷区立の全小学校が、湯元温泉の「湯守釜屋」に宿泊しました。明治元年に開業以来、150年の歴史をもつ老舗旅館です。湯元温泉は、日光の奥座敷といわれ、西暦778年に日光開山の祖、勝道上人が発見したといわれています。近くの湯ノ平湿原に源泉があり、木道の散策路が整備されています。このような風情ある宿泊地で、友達と寝食をともにしたこと自体が、生涯に残る思い出であり、豊かな心の育成につながることでしょう。また、渋谷区3校が一緒に宿泊し、約160名が大広間で食事をすることは圧巻でした。学校の代表であるという自覚をもって振る舞う他校の児童の立派な姿にも刺激を受けたことでしょう。



9月には、運動会があります。宿泊体験学習で育まれた力を発揮し、高学年としての誇りを胸に、リーダーシップを発揮してくれることと楽しみにしています。